

日本計量生物学会ニューズレター第98号

2008年11月30日発行

～・～・～・～・～・目次～・～・～・～・～

- ① 巻頭言「学会の活性化と国際化にむけて」
- ② 日本計量生物学会 2008 年度第4回対面理事会議事録
- ③ 2009-10 年度評議員選挙の結果報告
- ④ 日本計量生物学会 2009 年度第 1 回評議員会議事録
- ⑤ 2009-10 年度会長候補者信任投票の結果報告
- ⑥ 2008 年度計量生物セミナーのご案内(速報)
- ⑦ 2009 年度の年次大会に関するお知らせ
- ⑧ 2009 年度日本臨床薬理学会海外研修員募集要項
- ⑨ XXIVth International Biometrics Conference (IBC2008) 参加報告
- ⑩ 学会誌「計量生物学」への投稿のお誘い
- ⑪ 学会事務局移転のお知らせ
- ⑫ 編集後記

① 巻頭言

「学会の活性化と国際化にむけて」

丹後俊郎 (国立保健医療科学院)

2005年～2008年の2期にわたる会長の任期を終えるにあたり、まずは学会の運営に協力いただいた理事や評議員、そして会員の皆様のご尽力に感謝の意を表したいと思えます。ありがとうございました。

本学会の活性化のための重点事項として最初に掲げたのは、投稿論文、会員増加、財政問題、学会の連合化、組織編成でした。学会誌の発行は順調でしたが、まだまだ投稿論文は少なく、海外からの投稿という学会誌の国際化も視野に入れて、今後さらに改善していく必要があると思われます。皆様もぜひ、投稿してください。一方、会員増加に関しては、順調に増加し、特にこの4年間で若い年齢層の会員を増やすことができました。しかし、国際的な観点からみれば女性会員が極めて少ないという問題もあり、日本の教育や社会的な問題なども含めて、さらに広い視野から取り組んで行かねばならない問題です。財政問題では会計上の赤字は解消されていますが、これは関係者のボランティア活動に支えられている部分が少なくありません。今後、さらに会員数を増やす取り組みが必要です。学会の連合化については、本学会を含めた6学会で構成する統計関連学会連合が発足し、連合大会ではシンポジウムを企画して学会としての独自性を出しながら協力体制を深めることを図るようにしました。一方、本学会独自には年次大会を開催し、生物統計の広い分野をカバーし、若手の発表を積極的に募るように図り、今後の発展につなげていけるよう取り組んできました。これがさらに実を結んでいくことを期待しています。組織編成に関しては、ちょうど私が会長となった年から新制度が開始され、評議員会および理事会が学会の運営を図っていくことになりました。この制度は必ずしも活かしきれいていません。より効率的な運営方法の構築を次期体制に委ねたいと思います。

以上の問題はいずれも学会の活性化の基本的事項ですが、これらを改善していく上でも重要な課題と思われたのは、日本計量生物学会の国際化の推進でした。若手を育成し、論文投稿を促すためには国際的にも通用する学術研究を行う研究者、実務者の育成が重要です。それには国際学会への参加が大きな意味を持ちます。最近のIBSの会員登録WEBデータベースを調べてみると、日本人のIBS会員数は

Regionの中ではなんと第3位(2008年11月11日現在)に位置し、5.2%を占めているのに、日本でのIBC開催は、1984年9月に東京で行われた日本学術会議との共同開催1度きりです。日本で開催するメリットとして、ふだん海外で行われているため参加しにくい国際会議でも参加しやすくなること、国際会議で多くの著名な研究者が来日し国際交流ができること、国際基準の新しい研究にふれて刺激を受けられることなどが挙げられます。そのため、IBC日本開催の足掛かりとして東アジアでのBiometrics推進のためEAR-BC2007を日本で開催し、1年おきにEAR-BC2009はインド、EAR-BC2011は韓国、EAR-BC2013は中国での開催する段取りを決めてきました。そして今年のダブリンで開催されたIBC2008において日本が日本の神戸で開催されることがほぼ決定しています。これはCouncil memberである次期会長の佐藤俊哉理事をはじめとして理事会が一致となって取り組んできたことが大きく実を結んだものと考えます。

ぜひ、IBC2012開催に向けて、これから開催されるEAR-BC、あるいは、ブラジルで開催されるIBC2010では多くの日本人の参加者が表舞台で日ごろの研究を発表し、積極的な学問上の相互交流を深めていただきたいと思います。そして、新しい計量生物学の萌芽が育っていくことを期待したい!

② 日本計量生物学会 2008 年度第4回対面理事会議事録

山岡和枝(庶務担当理事)

日時: 2008年9月8日(月)17:30～19:00
場所: 慶應義塾大学理工学部矢上キャンパス(14-212, DR2:ディスカッションルーム2)
出席: 岩崎, 上坂, 大瀧, 大橋, 折笠, 浜田, 菅波, 丹後, 松井, 松浦, 松山, 森川, 山岡
欠席: 酒井, 佐藤, 南

丹後会長を議長として、議事を開始した。議事は以下の通りである。

議題

1. 2008 年度年会報告

企画: 年会担当理事より最終報告があった。参加者は年会214名、チュートリアル175名と、年会になり参加者が2007年のシンポジウムより増加した。2009年会は、前回のe-mail理事会で決定したように、5月20日午後～21日に年会、22日午前にチュートリアル(会場は大阪大学医学部銀杏会館ホール)を予定しているとの報告があった。特別講演・特別セッションなどの案があればできれば9月中に担当理事に個別に連絡してほしいとの依頼があった。

2. 2008 年度統計関連学会連合大会報告

企画: シンポジウム担当理事から統計関連学会連合大会初日午後「医薬品の有効性・安全性評価のためのカウントデータの統計解析」、企画セッション「日本計量生物学会奨励賞受賞者講演(奨励賞受賞者2名の講演)」を行ったことが報告された。また、前日7日に行ったチュートリアルセッションでは本学会で提案したメタアナリシスの方法と実践を含め2つのセッションが行われた。

3. 計量生物セミナー報告

担当の上坂理事より、臨床試験関連をテーマに12月開催予定で企画していたが、講師が集まらず、来年以降に延期したいとの報告があった。会員への教育効果、途上国援助などを勘案し、半日コースでの実施も意味があるという意見が出され、再検討することになった。

4. Biometric Bulletin への年会報告記事の記載内容について

Biometric Bulletin への年会報告記事の記載内容を、セッション名と特別講演の情報のみの紹介とし、WEBページのアドレスの紹介とすることにしたとの報告があり、今後もこの方針でいくことも含めて承認された。

5. 編集委員会報告

編集担当理事より、発行状況および現在の投稿状況について報告があった。「計量生物学」第29巻1号、29巻特別号(1号)(2006年計量生物セミナー記録集)を7月初旬に発行し、第29巻2号を11月に発行予定、さらに29巻特別号(2号)の原稿が9月中旬に集まる予定で、まとも次第、発行を予定していることが報告された。

6. 会報報告

会報担当理事より、98号を12月初旬に発行予定であるとの報告があった。

7. 広報報告

英文WEBページの充実を図っていくことになった。

8. 選挙管理委員会報告

選挙管理委員長より、次回評議員選挙にむけての準備状況の報告があった。

9. IBC2012 立候補結果について

佐藤理事からのIBC2012立候補結果として、IBC2012の日本開催が採択され、その後、決定の連絡が丹後会長と佐藤理事あてにあったこと、開催日は現在、IBSで検討・確認作業を行っていること等が報告された。立候補提案書にあったようにChairmanを丹後会長とし、大橋理事、佐藤理事の3名がLOCとして任命されたことが確認され、今後、IBCマニュアルに従いLOCのメンバーを検討し、e-mail理事会で審議、承認を得た後本部に報告、その承認を得て活動を行っていくこととなった。また、IPC2010会合に関する南理事からの報告があったことが申し添えられた。

11. 名誉会員・入退会者・会員数

庶務理事より、現在の会員数について報告があり、前回の理事会で承認の得られた未納者を除名処分としたことが申し添えられた。また、あて先不明者については除名処分として取り扱うことになった。

12. 次回対面理事会について

次回は新旧理事会として12月中旬に行う予定。なお、12月初旬までに、引継ぎ事項のまとめとして、各委員会の4年間の総まとめ、および今後の課題をA4 1-2枚程度にまとめ、庶務理事まで提出することになった。

③ 2009-10年度評議員選挙の結果報告

松山 裕 (選挙管理委員長)

過日実施されました日本計量生物学会2009-10年度評議員選挙の結果、以下の40名が当選されましたのでご報告します(地区別、五十音順)。2年間よろしくお願ひします。

東日本	西日本
1. 石塚 直樹	和泉 志津恵
2. 伊藤 陽一	上坂 浩之
3. 岩崎 学	大瀧 慈
4. 大橋 靖雄	大森 崇
5. 岸野 洋久	小川 幸男
6. 越水 孝	折笠 秀樹
7. 酒井 弘憲	鍵村 達夫
8. 菅波 秀規	角間 辰之
9. 高橋 邦彦	嘉田 晃子
10. 丹後 俊郎	後藤 昌司
11. 椿 広計	小森 哲志
12. 西川 正子	佐藤 俊哉
13. 浜田 知久馬	柴田 義貞
14. 松井 茂之	寒水 孝司
15. 松山 裕	千葉 康敬
16. 三中 信宏	濱崎 俊光
17. 三輪 哲久	森川 敏彦
18. 森田 智視	柳川 堯
19. 山岡 和枝	山中 竹春
20. 山口 拓洋	吉村 功

④ 日本計量生物学会 2009 年度第 1 回評議員 会議事録

山岡和枝(庶務担当理事)

日 時: 2008年10月25日(土)14:00 - 15:30

場 所: 東京理科大学九段校舎南棟2FKS203 教室

出 席:

(東日本) 岩崎 学, 大橋靖雄, 越水 孝, 高橋邦彦, 丹後俊郎, 西川正子, 浜田知久馬, 松井茂之, 松山 裕, 山岡和枝, 山口拓洋

(西日本) 上坂浩之, 大森 崇, 小川幸男, 嘉田晃子, 佐藤俊哉, 山中竹春, 柳川 堯

委任状:21 通

開会に先立ち、出席者18名および委任状21通により、会則33条(委任状を含め評議員現在数の2分の1以上)の要件を満たし評議員会が成立することが、丹後2007-2008年度(現)会長により確認された。また、IBS2012が日本で開催されることになったこと、及び、今後の国際会議の予定と今後の協力依頼について述べられた。

続いて出席議員の自己紹介がなされた。その後、会則32条(評議員会の議長は、出席評議員の互選によって定める)に従い、議長の選出を行った。互選により丹後現会長が議長として推薦され、以下の議事が進行した。

議 題:

1. 評議員選挙結果報告

松山選挙管理委員長により、評議員選挙の結果40名の評議員が選出されたこと、投票率は前回よりわずかに高まったがまだ十分とはいえないことが報告された。さらに今後の会長候補者の信任投票について説明があった。

2. 委任状の取扱について

松山選挙管理委員長より、委任状の取り扱いについて、会

則には特に明記されていないが、理事選出の際に委任者を通して1票としてカウントしてほしいという希望があったこともあり、委任状の記名者には委任者の票数分の投票を行ってもらうという提案があった。これについて討議し、会長候補選出については候補者の選出なので出席者のみで推薦を行い、理事および監事は評議員会での決定事項であるため委任の分は記名者に一任して記名分の投票を行うという取り扱いをすることになった。なお、この取り扱いについては、今後の理事会で検討を続けることになった。

3. 2009-2010 年度会長候補者の選出

会長候補者選出方法について、会則 32 条(評議員会の議長は、出席評議員の互選によって定める)の確認後、選出方法について話し合い、まずは自薦、他薦も含めて推薦候補を挙げるようになった。柳川委員から佐藤俊哉氏の推薦があり、ほかの推薦はなかったため、信任投票を行うことになった。その結果、出席委員 18 名中 17 名の信任が得られ、評議員会としては佐藤俊哉氏を会長候補として推薦し、会員の信任投票を行うことが決定された。

4. 理事 10 名の選出

続いて理事の選出が行われた。議長より、細則第 3 条 (3) では 10 名の理事を評議員の中から選出すると定められているが、同条同項の「IBS の council member は理事に就任する」という規定に基づき、現 council member の佐藤俊哉氏、松山裕氏は理事に就任することが確認され、このうち、佐藤氏は会長候補であるため 9 名の理事を評議員の中から選出することが確認された。また、選出方法は Council member および会長候補者を除く全評議員を被選挙者として、出席理事 18 票および委任状記名者票 13 票による、5 名連記の投票により選挙を行ない、上位得票者 9 名を理事とすることとした。

その結果、Council member の松山氏を含めて、以下の 10 名の理事が選出された。

大橋靖雄、大森 崇、酒井弘憲、菅波秀規、丹後俊郎、
浜田知久馬、松井茂之、松山 裕、森田智視、山岡和枝
(五十音順)

5. 監事 2 名の選出

続いて監事の選出が行われた。細則第 3 条 (4) の規定(評議員会が理事以外の評議員の正会員の中から選挙/協議により選出する)に基づき話し合った結果、会長候補者および選挙で選出された理事以外の評議員を被選挙者として、出席評議員および委任状票を加えて 2 名連記の投票により選挙を行ない、上位得票者 2 名を監事に選出することとした。

その結果、三輪哲久、森川敏彦の両氏が監事に選出された。

6. 評議員制度について

評議員制度が始まって今回で3期目を迎えたことから、前回も問題になっていた選挙での投票数の少なさ、東西での評議員数と会員数とのバランス、評議員会での会長候補者の選出方法、会長候補者の信任投票制度、評議員の役割などについて討議がなされ、今後のあり方、特に評議員会から理事会への提言方法について理事会に検討を続けるよう提言をすることになった。

⑤ 2009-10 年度会長候補者信任投票の結果報告

松山 裕 (選挙管理委員長)

過日実施されました日本計量生物学会 2009-10 年会長候補者(会長候補者:佐藤俊哉氏)の信任投票の結果、会長候補者は信任されましたのでご報告します。

⑥ 2008 年度計量生物セミナーのご案内(速報) 上坂浩之(企画(シンポジウム)担当理事)

テーマ:「臨床試験におけるベイズ統計の活用」

日時: 2008 年 12 月 6 日(土) 13:00~17:00

会場: 東京大学薬学部講堂(薬学部総合研究棟2階)

~プログラム~

1. 13:00~15:00

Adaptive用量反応試験の理論と実装(仮題)

Scott Berry氏 (Berry Consultants)

2. 15:30~17:00

CRMの理論と実装(仮題)

石塚直樹氏 (国立国際医療センター)

参加費:

会員・学生会員:2,000円

非会員(学生を含む):5,000円

参加申込:

参加希望者は 11月28日(金) までに事前参加申込手続きをお願いします。

○申込方法および詳細は日本計量生物学会ホームページ

http://www.soc.nii.ac.jp/jbs/index_i.html

をご覧ください。

⑦ 2009 年度の年次大会に関するお知らせ

松井茂之・松浦正明・森川敏彦
(企画担当理事(年会))

来年度の年次大会は、2009 年 5 月 20~21 日、大阪大学医学部の銀杏会館ホール

(<http://www.office.med.osaka-u.ac.jp/icho/icho-jp.html>)にて開催されます。

また、22 日午前には、チュートリアルセミナーが開催されます。なお、来年度も応用統計学会との共催であり、22 日午後に応用統計学会のチュートリアルセミナー、23 日には応用統計学会年会が開催されます。現在、計量生物学会の特別セッション、チュートリアルセミナーのテーマとして、「代理エンドポイントの統計学的評価」、「医薬品の Early DevelopmentとBayesian Estimation」などを検討しております。

一般講演セッションは、今年と同様に、以下にある分野毎の演題募集を行います。

- A. 臨床試験・臨床研究, B. 臨床診断学, C. 疫学,
- D.ゲノム・バイオインフォマティクス, E.資源・環境・農業,
- F.その他

昨年より始まった東アジアでの EARBC プログラム(次回 2010 年インド)、国際計量生物学会国際会議の日本での開催(2012 年)などの本学会の国際活動に向けて、国内の研究活動をより活発にすることが重要です。会員の皆様の積極的なご発表をお願い致します。

⑧ 2009 年度 日本臨床薬理学会海外研修員募集要項

日本臨床薬理学会海外研修員選考委員会

次の要項により 2009 年度本学会海外研修員候補者を募集します。

I. 日本臨床薬理学会海外研修員

A. 目的

国際的な視点より、わが国の薬物治療に関わる質の高い臨床研究、疫学研究を遂行し、またそのシステム作りや教育に貢献できる人材の育成を図ることを目的とする。

B. 応募資格

1. 薬物治療の臨床研究に従事、またはそれを志す医師および医師以外の研究者(原則として 40 歳以下)
2. 研修に必要な知識、経験および語学力を有するもの
3. 薬物治療の臨床研究が可能な研修施設あるいは研修コースにおいて 2009 年 9 月より 1 年間以上 2 年間以内の研修が可能なもの
4. 日本臨床薬理学会会員であること(応募時入会可)
5. 帰国後、臨床薬理学領域の活動を継続し、医師は学会認定医、薬剤師は学会認定薬剤師の資格を取得する意思のあるもの

他の機関に助成申請をされている場合は願書にその旨記載ください(選考の際には他の機関への助成申請の有無は考慮しません)。また他の機関からの助成が決定した場合は速やかにその旨をご連絡ください。その結果、奨学金支給額が減額されることがあります。

C. 募集人員

1. 臨床研究を志向する医師 若干名
2. 臨床薬学、生物統計学、薬剤疫学等、臨床研究に資する学問を志向する研究者 若干名

D. 奨学金支給額及び支給期間

1. 支給額:年額 400 万円以内(往復運賃および付帯費用、滞在費、医療保険費、学会参加費、語学研修費等が含まれます)
2. 支給期間:研修開始から定められた期間とする。(期間延長の場合の支給はしない)

1. 希望者は下記の海外研修事務局に願書を請求してください(電話による申し込みは受け付けません)。願書は学会ホームページ(<http://www.jscpt.jp>)からもダウンロードできます。

2. 応募必要書類

- a. 願書(3.5×4cm の写真添付)
 - b. 推薦状 2 通(所属機関責任者および本学会評議員)
所属機関責任者は、大学の場合、総合大学では、学部は学部長、大学院は研究科長とし、単科大学では学長とし、研究所では研究所長とする。また研究機関の場合は代表責任者とする。なお、所属機関責任者の推薦状の中に応募者が帰国後、臨床薬理学領域の活動に携わることを明記すること。
 - c. 研修先からの臨床薬理プログラムに参加させる旨の手紙および研修先における薬物治療の臨床研究に関するパブリケーションリスト
 - d. 健康診断書
 - e. 主要論文 2 編(各 8 部)
 - f. 西暦で記載する
3. 締切:2009 年 2 月末日

E. 選考方法

1. 一次:書類審査
2. 二次:面接(必須,日時・場所は一次審査の結果通知の際にお知らせします)
面接日は 6 月下旬または 7 月上旬の週末を予定
3. 結果:二次面接終了後 2 週間以内に通知

II. 連絡先

日本臨床薬理学会海外研修事務局

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル

FAX: 03-3815-1762 E-mail: clinphar@jade.dti.ne.jp

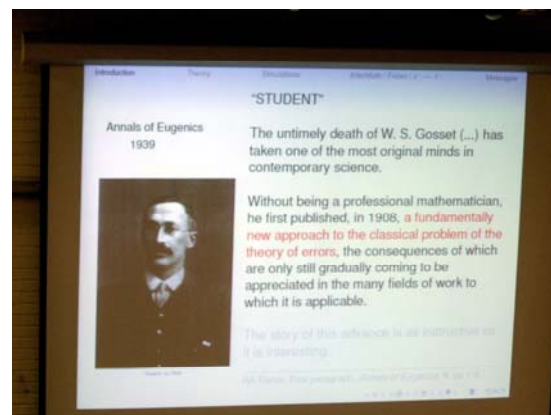
URL <http://www.jscpt.jp>

⑨ XXIVth International Biometrics Conference (IBC2008) 参加報告

飛田英祐(国立保健医療科学院)

2008 年 7 月 13 日から 7 月 18 日の 6 日間、アイルランド ダブリンにある University College Dublin にて第 24 回 IBC2008 が開催されました。私は IBC には本大会が初参加でしたが、総講演数が約 900 もある、つまり 1,000 人近くの生物統計学者が参加しているとても規模の大きい学会で、そのうち日本人だけでも約 30 演題が出されていました。学会の進行上、印象に残ったことは講演が早く終了した場合や講演がキャンセルされた場合でも、次の講演者を繰り上げることなく、予定表に決められている講演者 1 人ひとりの講演時間どおりに進められていることでした。これは、聴衆が関心のある講演を session 単位でなく、個人単位で選択できることを意図したことだそうです。そのためか、他の学会と比べて質問の数も多く、内容もかなり複雑なものとなり、通常の学会よりも活発で有意義な質疑応答が行われていたと感じました。

16 日の午前には、開催地ダブリンならではの Special session として、Gosset centenary が行われ、会場からあふれる程に多くの聴衆が集まり、Dr. Stephen Senn, Dr. David Cox 先生方による Student's の統計的推測における貢献や理論の役割を主旨とした講演が行われました。ちなみに、統計家としてアイルランドに来たからにはと、ダブリンの観光地として有名なギネス・ストアハウスに行き、t 分布を頭に浮かべつつ、最上階にある円形の展望台で 360 度ダブリン市内を見渡しながらかんだ出来たてのギネス・ビールは最高でした。



最終日の私の講演はというと...極度の緊張と練習不足のため散々たる状態に終わってしまいましたが、学会全体を通して海外の生物統計家の考え方や疑問を持つポイント、講演者の適切な回答の仕方などを学ぶことができ、学会参加経験が少ない私にとってたいへん勉強になりました。また、

自分の研究と異なる発表を聞くことによって、新たな知識が得られ、自分自身の研究に対するヒントも得ることができる有意義な経験ができました。

次回の第25回大会は2010年にブラジルで開催されることが決まっていますが、その次の2012年には日本で開催される予定らしいので、今から楽しみです。



⑩ 学会誌「計量生物学」への投稿のお誘い

松山 裕 (編集担当理事)

本学会雑誌である「計量生物学」に会員からの積極的な投稿を期待しています。会員のためになる、会員相互間の研究交流をより一層促進するための雑誌をめざすため、以下の5種類の投稿原稿が設けてあります。

1. 原著 (Original Article)

計量生物学分野における諸問題を扱う上で創意工夫をこらし、理論上もしくは応用上価値ある内容を含むもの。

2. 総説 (Review)

あるテーマについて過去から最近までの研究状況を解説し、その現状、将来への課題、展望についてまとめたもの。

3. 研究速報 (Preliminary Report)

原著ほどまとまっていないがノートとして書き留め、新機軸の潜在的な可能性を宣言するもの。

4. コンサルタント・フォーラム (Consultant's Forum)

会員が現実直面している具体的問題の解決法などに関する質問。編集委員会はこれを受けて、適切な回答例を提示、または討論を行う。なお、質問者(著者)名は掲載時には匿名も可とする。

5. 読者の声 (Letter to the Editor)

雑誌に掲載された記事などに関する質問、反論、意見。論文投稿となると、「オリジナリティーが要求される」、「日常業務での統計ユーザーにとっては敷居が高い」などを理由に二の足を踏む会員が多いかもしれませんが、上記の「研究速報」、「コンサルタント・フォーラム」は、そのような会員のために設けられた場であり、活発に利用されることを特に期待しています。いずれの投稿論文も和文・英文のどちらでも構いません。また、2004年度から学会に3つの賞が設けられ、その一つである奨励賞は、「日本計量生物学会誌, Biometrics, JABES」に掲載された論文の著者(単著でなくても第1著者かそれに準ずる者)で原則として40歳未満の本学会の正会員または学生会員を対象に、毎年1名以上に与えられる賞です。最近では、履歴書の賞罰欄に「なし」と書くこと公募の際に引

け目を感じるくらいです。会員諸氏の意欲的な論文投稿をお待ちしております。なお、投稿に際しては、雑誌「計量生物学」に記載されている投稿規程を参照してください。

⑪ 学会事務局移転のお知らせ

学会事務を委託している統計情報研究開発センター(Sinfonica)の住所移転に伴い、学会事務局も下記住所に移転することとなりました。

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
(財)統計情報研究開発センター内
(FAX番号はまだ未定です)

注) 2009年1月より、上記住所となります。

⑫ 編集後記

会報第98号をお届けします。今回は出張中での編集作業で大変でした。多くの誤りをご指摘いただいた理事の方々、事務局の田澤さんに感謝いたします。本号では、2007-2008年度体制での最後の会報として、丹後俊郎会長から総括をいただきました。次号は、佐藤俊哉会長のもと、新体制によりお届けすることとなります(松井)。

計量生物学会ニュースレター98号 2008年11月30日発行 発行者 日本計量生物学会 発行責任者 丹後俊郎 編集者 酒井弘憲, 松井茂之
